

JUKI

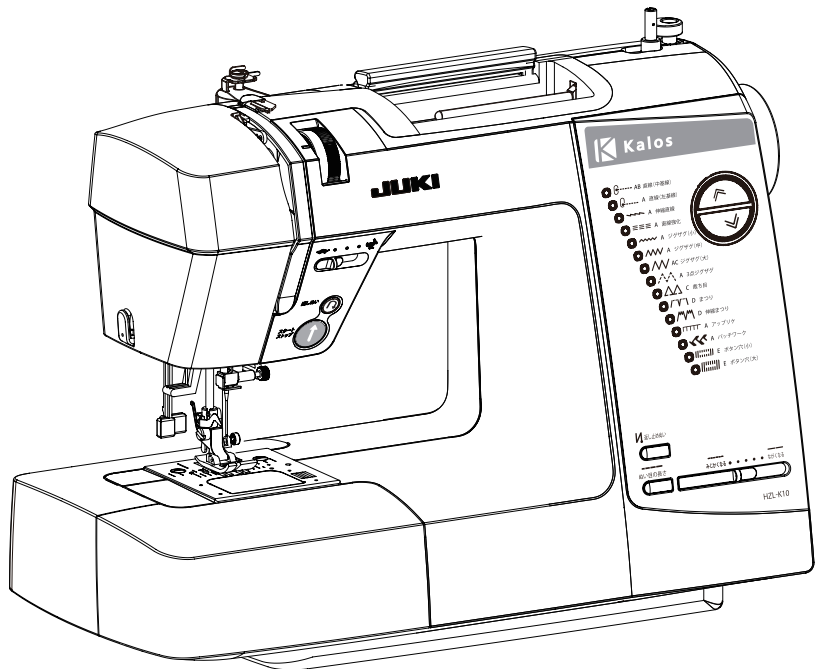
COMPUTER SEWING MACHINE



Kalos

カロス
HXL-K10 シリーズ

取扱説明書



注意

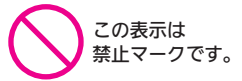
安全にご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれますように保管してください。

お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。


このコンピューターミシンの特長をご理解していただき、正しく安全にご使用していただくためにどうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。なお、このミシンは選びぬかれた純正部品を使い、十分に品質管理された製品ですので多彩なソーイングをお楽しみください。

安全にご使用していただくために

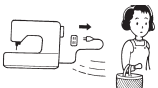
このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことから必ずお守りください。このミシンは日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY
仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。









警告 このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。



1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。

- ミシンのそばを離れるとき。
- ミシンをご使用になったあと。
- ミシンのご使用中に停電したとき。




注意 このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないでください。
(コントローラーは別売品です)
2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。
6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。

7. お子様かミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用される場合は、特に安全にご注意ください。
8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切って室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
 - 下糸、上糸をセットするとき。
 - 取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。

(模様選択時に針や糸の交換のため電源を切りますと、すべてクリアされます。)


9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - 正常に作動しないとき。
 - 落下などにより破損したとき。
 - 水に濡れたとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。
11. 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

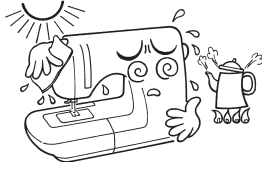
12. スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどの原因となります。
13. ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は必ず壁から30cm以上離して使用し、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
14. ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。
15. 針の下に指などを入れないでください。
16. ミシン本体には、取扱説明書に記載されている正規部品をご使用ください。
17. ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか、廃棄してください。

警告

特に、布地と糸と針の組み合わせは、11ページの説明表に従って適切な組み合わせでお使いください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニムなど）を細い針（11番以下）でぬうと針が折れ、思わぬ怪我をする可能性があります。

その他のご注意

- 直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



- シンナーなどの溶剤でふかないでください。

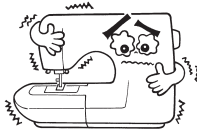


汚れたときは、やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

このミシンはマイクロコンピューター、半導体電子部品や精密な電子回路を内蔵していますので、下記の状態がおこる場合があります。ご注意ください

- 5℃～40℃の範囲でお使いください。

温度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。



- 長時間のゆっくりぬいを続けると異常発熱を防ぐため、安全装置が働き、ミシンが止まるようになっています。このとき、スタート・ストップボタンは赤く点滅し、警告音が鳴ります。

約10分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。



※ ミシンの使用温度は5℃～40℃です。直射日光の当たるところや、ストーブ、ろうそくなど火の気のあるものそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。

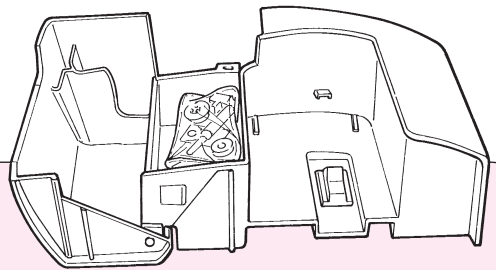
もくじ

安全にご使用していただくために……………1
 其他のご注意……………2
 付属品……………3
 各部のなまえ……………4
 主なはたらき……………5
 模様の種類と操作・表示パネル……………6
 下糸を巻くには……………7
 ボビンのセット
 上糸のかけ方……………8
 針自動糸通し
 下糸の引きあげ方
 押えのとりかえ方……………9
 押えと各模様の関係……………9
 ぬい目の長さを変えるには……………10
 ドロップフィードつまみ……………10
 布地・糸・針の関係……………11
 糸調子を変えるには……………11
 直線ぬい……………12
 自動止めぬい……………13
 手動止めぬい、厚地のぬい始め
 ジグザグぬい……………14

裁ち目かがり……………14
 直線強化ぬい……………14
 自動ボタン穴かがり……………15
 ファスナーつけ……………16
 脇あきファスナーつけ
 つき合わせファスナーつけ
 まつりぬい（ブラインドステッチ）……………17
 パッチワーク……………17
 別売品のご紹介……………18-20
 コンシール押え、三ツ巻き押え、
 上送り押え、手動ボタン穴かがり押え、
 キルトアタッチメント、スムーズ押え、
 棒定規、コントローラー
 針の交換……………21
 お手入れ（掃除）……………21
 故障かな…というときは……………22
 アフターサービスと保証……………裏表紙
 仕様表……………裏表紙



ミシンのケースに取扱説明書を入れることができます。

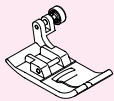


補助ベッドの中に付属品が入っています。

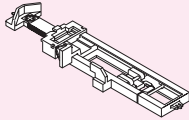
付属品

■付属品

※



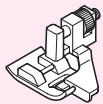
基本押え (A)



ボタン穴かがり押え (E)



ミシン油



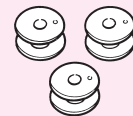
ブラインドステッチ押え (D)



ファスナー押え (B)



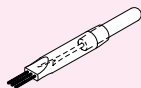
裁ち目かがり押え (C)



ボビン (3ヶ)



専用ドライバー



リッパー
(糸ほどこ)

※



フェルト

※



糸ゴマキャップ
(中)



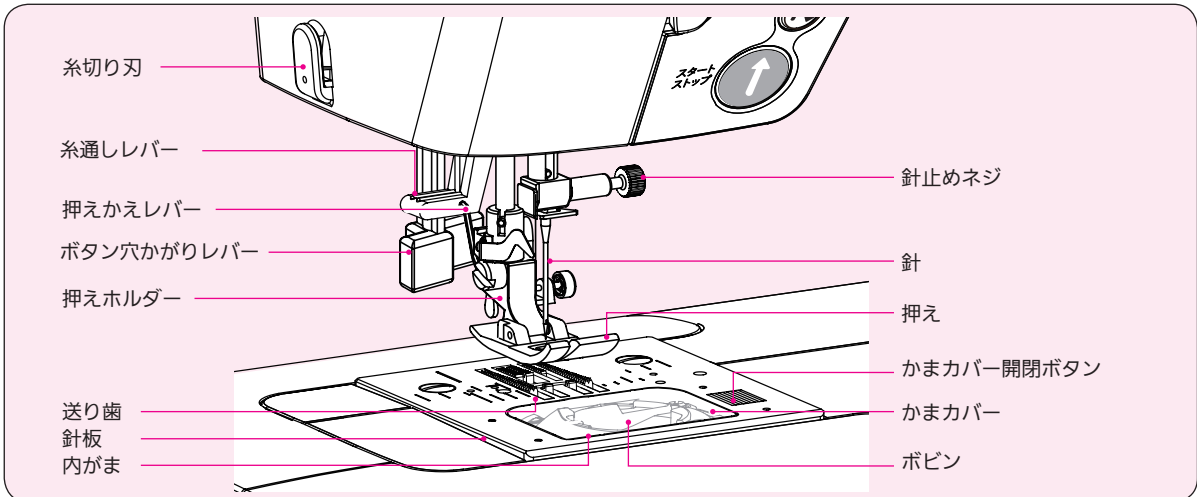
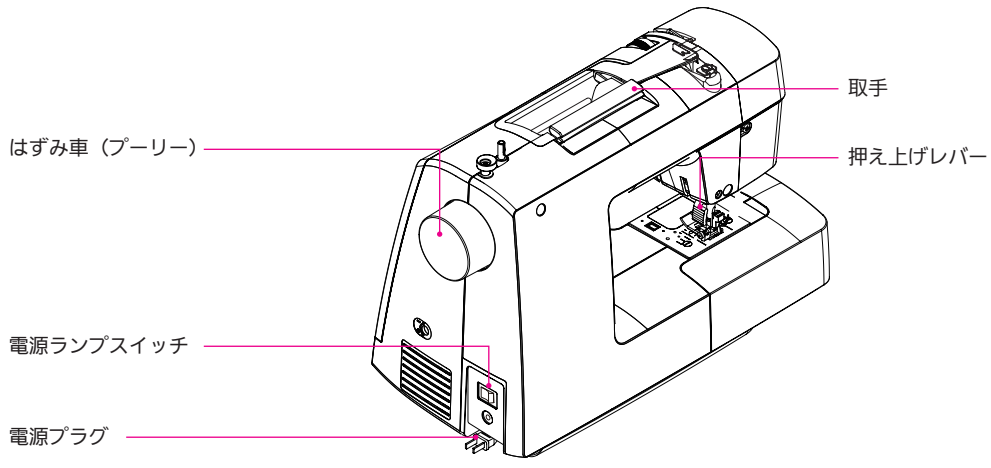
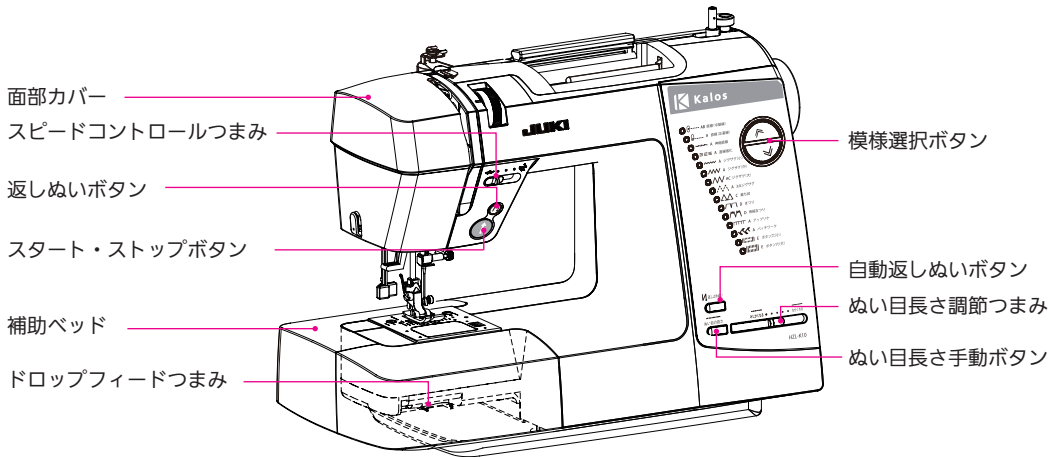
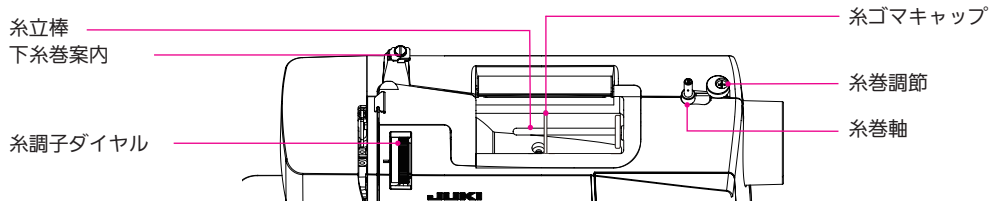
糸ゴマキャップ
(大)



針 HAx1
11番 2本
14番 1本

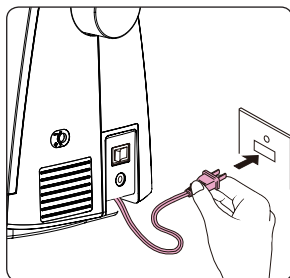
※ マークのついている部品はあらかじめミシン本体にセットされて出荷されます。

■ 各部のなまえ



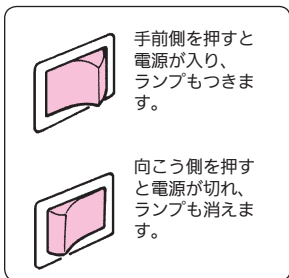
■ 主なはたらき

電源・コード

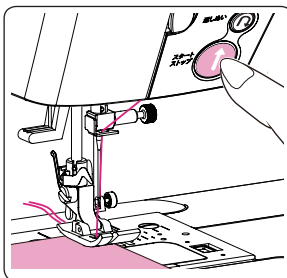


コードを引き出します。
コードを少し引いてゆるめますと巻きこみます。

電源ランプスイッチ

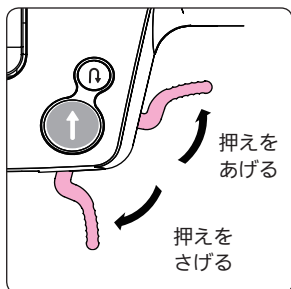


スタート・ストップボタン



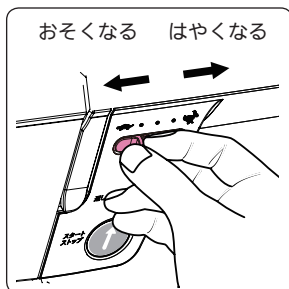
ミシンをスタートさせます。
再度押すと針が下位置でストップします。
スイッチの色がミシンの準備の状態が変わります。
緑色：スタート可能とぬい中のとき
赤色：スタート不可能なとき（押すと一針で止まります）
橙色：下糸巻き（糸巻軸が右側にある）のとき

押え上げレバー



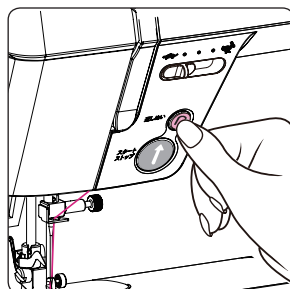
上にあげると押えがあたります。下へさげると押えはさがります。

ぬい速度調節つまみ



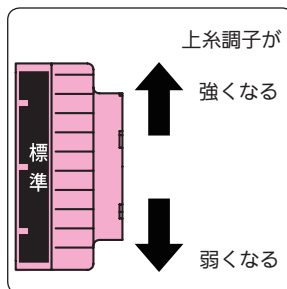
ぬい速度を調節します。

返しぬいボタン



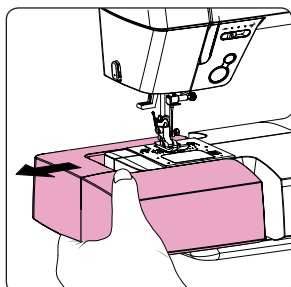
押している間、返しぬいをします。ぬい始め、ぬい終わりに返しぬいをするとぬい目がほつれません。返しぬいボタンを押すと、針は上の位置で止まります。

糸調子ダイヤル



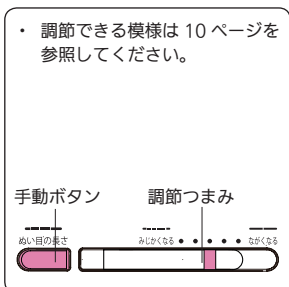
上糸調子を調整します。

フリーアーム



補助ベッドを左へ引きますとフリーアームになります。

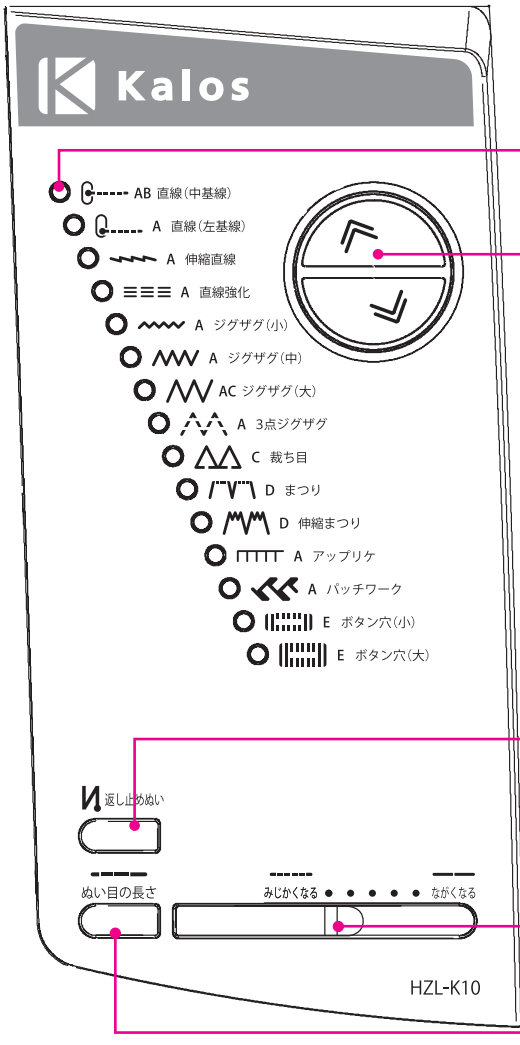
ぬい目の長さの調節



ぬい目の長さは各模様にあったサイズで自動設定されています。各模様のぬい目の長さを変えるには：

手動ボタンを押して（ボタンが光ります）から、お好みの位置に合わせます。
※ボタンが点滅しているときは、ぬい目の長さが自動のときと同じになります。

■ 模様の種類と操作・表示パネル



【模様表示 LED】
選ばれた模様の LED が点灯します。
電源 ON 時は一番上の LED が点灯します。

【模様選択ボタン】
ボタンを押すごとに模様表示 LED の点灯がシフトし
模様選択が変わります。

【自動返しぬいボタン】
ぬい始め、ぬい終わりに返しぬいができます。

【ぬい目の長さ調節つまみ】

【ぬい目の長さ手動ボタン】

* 電源を入ると、自動的に直線（中基線）が選ばれます。

このミシンは伸縮素材（ニット、ジャージー地など）に適したぬい目（模様）を備えています。

伸縮地用模様

伸縮直線ぬい

直線強化ぬい

三点ジグザグ

伸縮まつりぬい

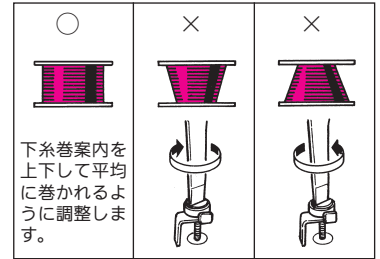
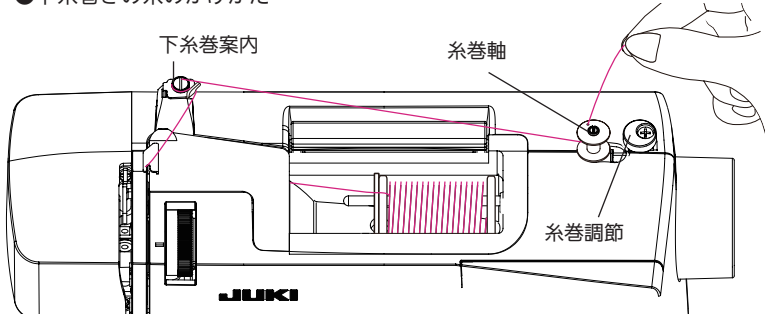
■ 下糸を巻くには

※ 下糸巻状態で電源を入ると、ピピッと音が鳴ります。

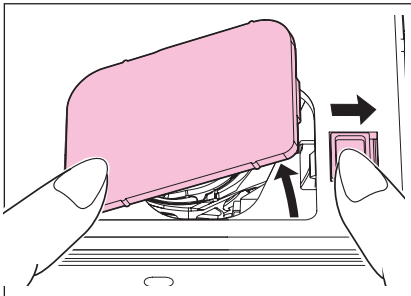
● 下糸巻きの糸のかけかた

● 下糸巻きの調節

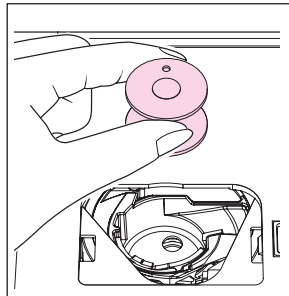
糸によって、下糸が片寄って巻ける場合に調節します。



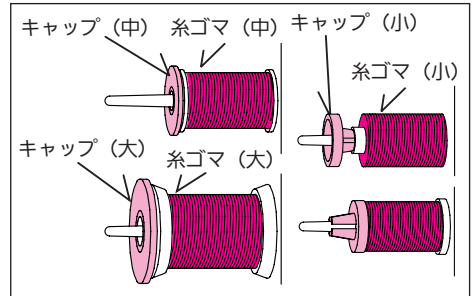
1 かまカバーを開けます。



2 ボビンをとり出します。



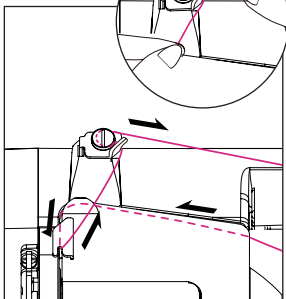
3 糸ゴマをセットします。



注意 かまカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

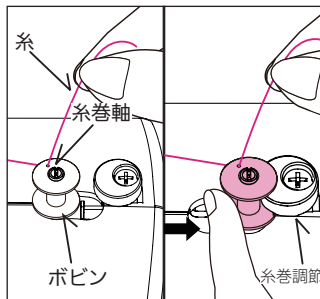
糸ゴマの外周に応じてキャップをかえてとりつけます。
※ キャップ (小) は別売品です。

4 下糸巻案内に入れ ます。



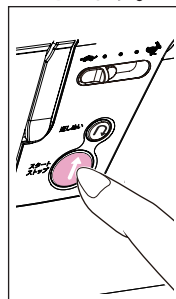
糸は右回りに、両手で下糸巻案内にかけます。

5 ボビンを糸巻軸に セットします。



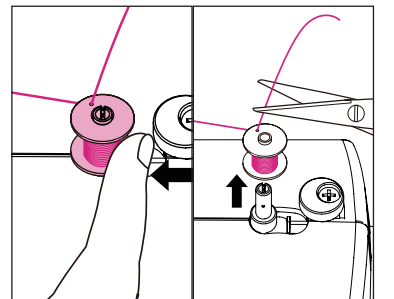
ボビンを糸巻調節へ押しつけます。(スタートストップボタンが橙色に点灯します。)

6 スタート させます。



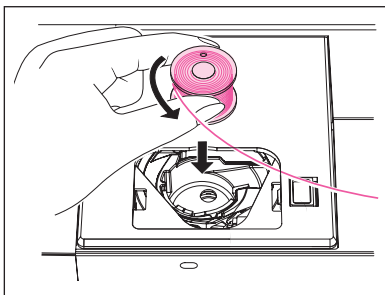
巻き終わったら再度スタート・ストップボタンを押します。

7 ボビンを左側に戻します。



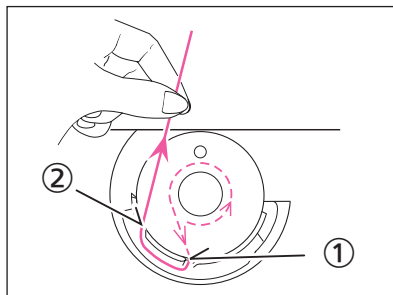
余分な糸を切り取りボビンを取り出します。

8 内がまに入れます。



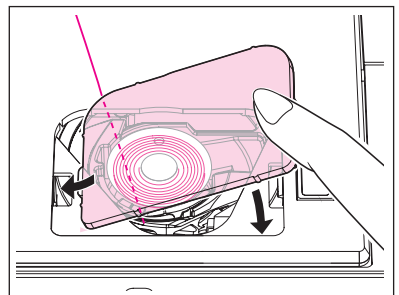
ボビンの糸巻き方向を左巻きに！

9 内がまに糸をかけます。



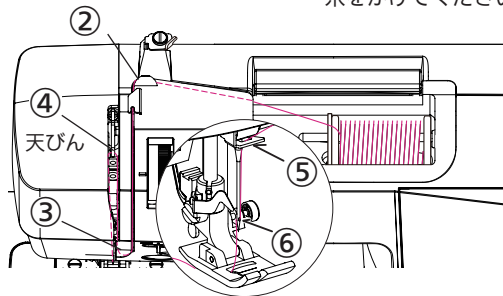
①に糸をかけ②のミゾの上へのせ後ろへもって行きます。

10 かまカバーを閉じます。

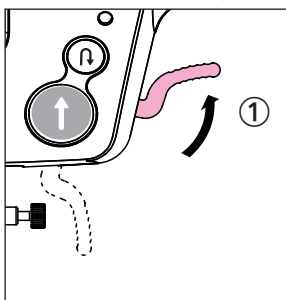


注意 上糸をかけるときは電源スイッチを切ってください。

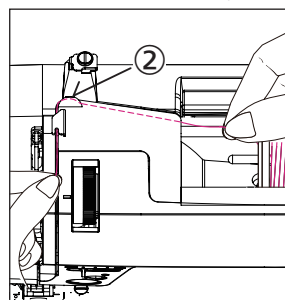
■ 上糸のかけ方 ※必ず押えを上げてから糸をかけてください。



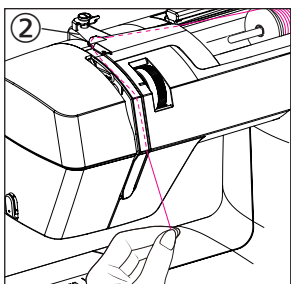
1 最初に押え上げレバーをあげます。



2 糸案内にかけます。

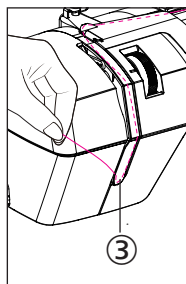


3



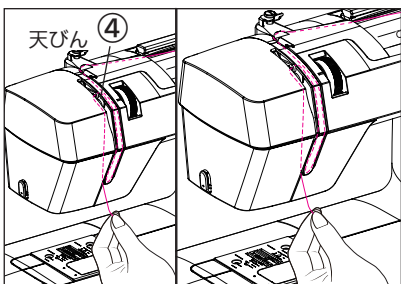
ミゾに入れて下にもって行きます。

4



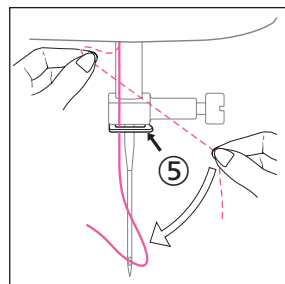
③から上にもって行きます。

5



④の天びんに糸をかけて下にもって行きます。

6



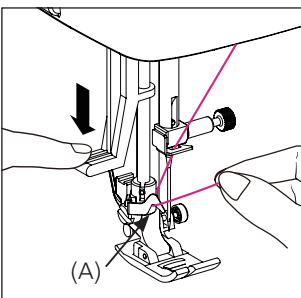
⑤は右側からかけます。

針自動糸通し

※針が最上点であることを確認してください。
※針は# 11～# 16を使用してください。

1 押えをさげ

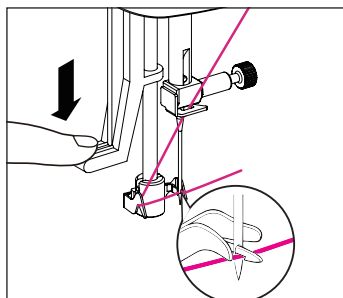
糸通しレバーをさげます。



針を上にあげてから糸通しレバーを途中（重くなる直前）までさげて (A) に糸をかけます。

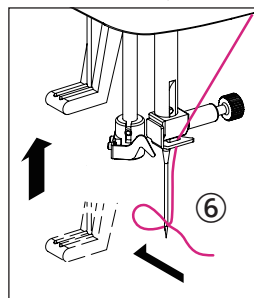
※ 針が最上点にないと、レバーは回転しません。

2 フックにかけます。



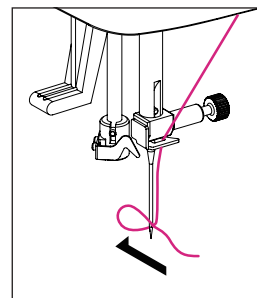
糸通しレバーを最後まで押し下げ、糸を糸掛けフックに引っかけます。糸の端を手前上方に持ってきて軽く持ちます。

3 糸通しレバーをはなします。



指をはなすとフックにかかった糸が針穴⑥に通ります。

4 糸を引き出します。

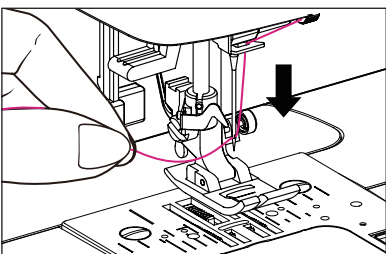


通した糸を針穴から10センチほど引き出します。

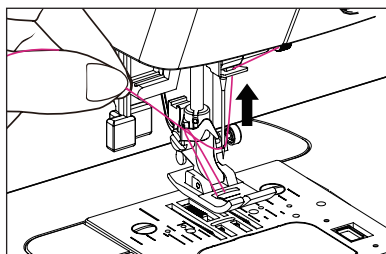
※ 針穴に糸通しフックが通らないままムリに押し下げると糸通しフックが曲がり、針穴に通らなくなることがあります。もし糸通しフックが曲ってしまった場合は、お手持ちのネジ回しなどを使って、針穴に入る位置に調整直してください。また、細い針に太い糸を使うと糸通しが出来ません。

下糸の引きあげ方

1 上糸を軽くもちます。

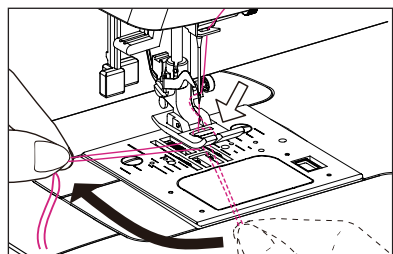


2 はずみ車を手前に回します。



針が上下して下糸を引き出します。

3 上・下糸を10センチほど出します。



上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

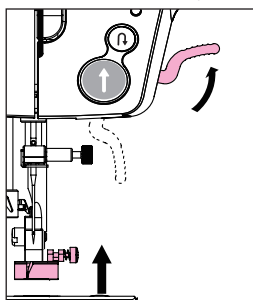
■ 押えのとりかえ方



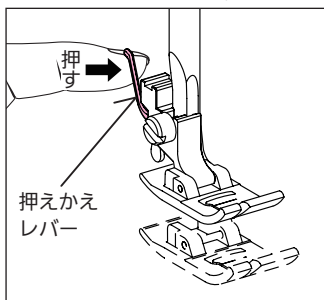
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをあげます。

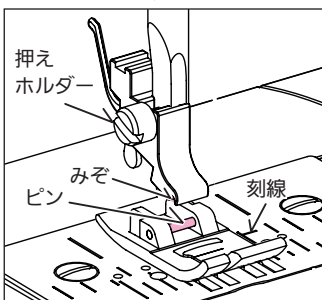


2 押えをはずします。

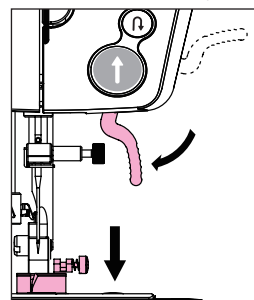


押えかえレバーを矢印の方向に押しします。

3 押えのピンと刻線を合わせます。



4 押えをさげます。



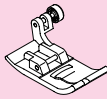

押え上げレバーを下げる
と押えはセットされます。



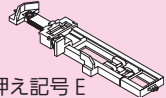
■ 押えと各模様の関係



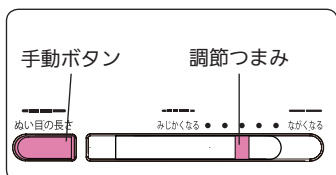
注意

押えをまちがえますと針がぶつかり、折れたり、曲ったりしますのでご注意ください。

押えと記号	基本押え 									ファスナー押え 
	押え記号 A									押え記号 B
模様	中基線	左基線								中基線使用
主な用途	直線ぬい		ジグザグ(小)	ジグザグ(中)	ジグザグ(大)	裁ち目かがり 3点ジグザグ	伸縮直線ぬい	直線強化ぬい	アップリケ パッチワーク	ファスナーつけ

押えと記号	裁ち目かがり押え 	ブラインドステッチ押え 	ボタン穴かがり押え 	
	押え記号 C	押え記号 D	押え記号 E	
模様				
主な用途	裁ち目かがり	まつりぬい	ボタン穴かがり	
			両かん止め(小)	両かん止め(大)

■ ぬい目の長さを変えるには …



- 電源を入れなおしたり、模様を選びなおすと、自動的に適正なぬい目の長さがセットされます。
- お好みのぬい目の長さにしたときは手動ボタンを押してから（ボタンが光ります）調整つまみで調節します。（手動の解除は模様を選びなおすか、再度、手動ボタンを押します。）
- ボタンが光っていないときは、つまみを動かしても、ぬい目の長さは変わりません。

No.	00	01	02	03	04	05	06	07	08	
模様										
ぬい目の長さ	自動	2.4	2.4	3.0	2.6	1.0	1.4	2.0	1.2	2.4
	手動の範囲		0.0 ～ 4.0	1.8 ～ 3.8	1.6 ～ 2.6		0.0 ～ 4.0		0.0 ～ 4.0	1.2 ～ 2.6

No.	9	10	11	12	13	14
模様						
ぬい目の長さ	自動	2.0	1.8	2.6	2.6	0.6
	手動の範囲		0.4 ～ 4.0	1.2 ～ 2.6	固定	0.2 ～ 1.0

(単位：ミリ)

直線ぬいの自動、手動のぬい目の長さの例

自動

自動の場合：調整つまみの位置に関係なく適正なぬい目の長さが設定されます。

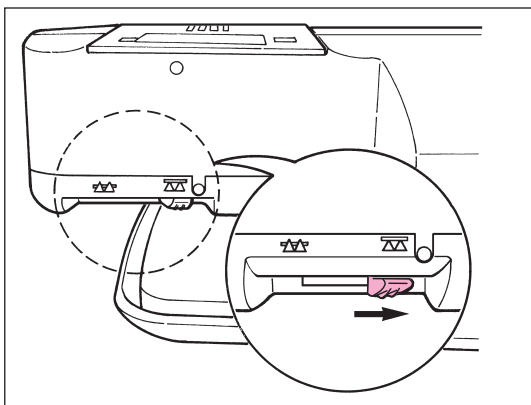
手動のとき

手動ボタンを押して調整つまみを点滅位置より右に動かしたとき

手動ボタンを押して調整つまみを点滅位置より左に動かしたとき

- 調整つまみを動かすとピッと鳴りますので、お好みの位置に合わせます。
- 手動のときでも自動の位置になりますと手動ボタンが点滅します。

■ ドロップフィードつまみ



- このつまみで送り歯を下げると、手で自由に布を送れますので、つくろいぬい、フリー刺しゅうに便利です。つまみを左に押しははずみ車（プーリー）を回すと送り歯が上がってきます。

■ 布地・糸・針の関係

	布地	ミシン糸	ミシン針
			 HA × 1
薄地ぬい 	ローン	シルク形状糸 ……80番・90番	11番
	ジョーゼット	スパン糸 ……80番・90番	
	トリコット	スパン糸 ……60番~90番	ニット針 11番
	ウール・化繊布	シルク形状糸 ……80番 スパン糸 ……60番~90番	11~14番
普通地ぬい 	普通木綿・化繊布	スパン糸 ……50番・60番	11~14番
	薄手ジャージー	シルク形状糸 ……50番 スパン糸 ……50番・60番	ニット針 11番
	一般ウール・化繊布	シルク形状糸 ……50番 スパン糸 ……50番・60番	11~14番
厚地ぬい 	デニム	スパン糸 ……30番~50番	14~16番
	ジャージー	シルク形状糸 ……50番 スパン糸 ……50番・60番	ニット針 11~14番
	コート地	シルク形状糸 ……50番	11~14番

※ 普通、上糸と下糸は同じ糸を使います。

※ 薄い布には細い糸と細い針、厚い布には太い糸と太い針を使います。

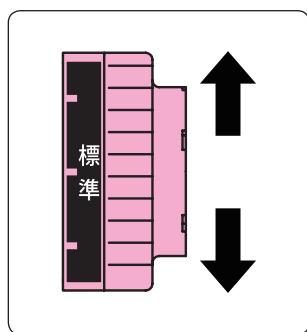
※ 針や糸は、実際にぬう布のはぎれを使って、必ず試しぬいをして確かめます。

※ 伸縮性のある布（ニット地）や、目とびしやすい合・化繊地をぬうときは、ニット針を使うと効果があります。

※ 30~90番の糸をご使用ください。

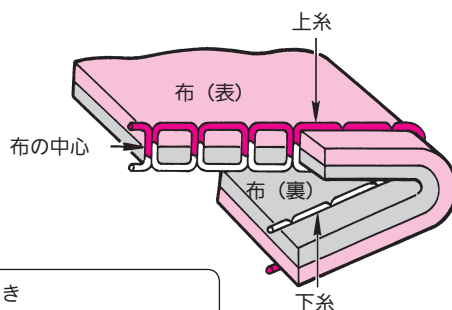
※ 段部など乗り越えにくい箇所は、手を添えてください。

■ 糸調子を変えるには・・・

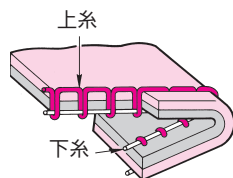


- 標準の位置にあわせるとほとんどの布地に適応できます。
- 特殊な素材など糸調子が変化したときは下表のように調整します。

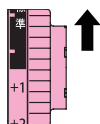
通常の糸調子は上糸と下糸のからんで
いるところが布の中心です。



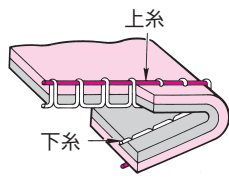
× 上糸の調子が弱いとき



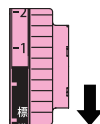
糸調子ダイヤル目盛の
数字を大きくします。



× 上糸の調子が強いとき



糸調子ダイヤル目盛の
数字を小さくします。

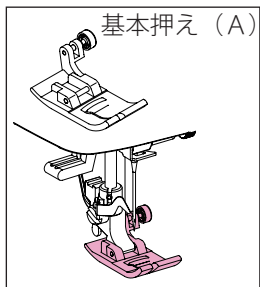


■ 直線ぬい

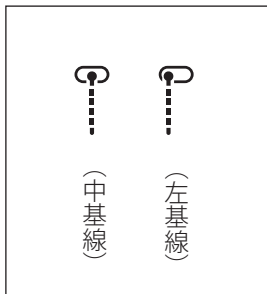
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

直線ぬいは、ぬいの基本です。
布地に適した針と糸を選びましょう。

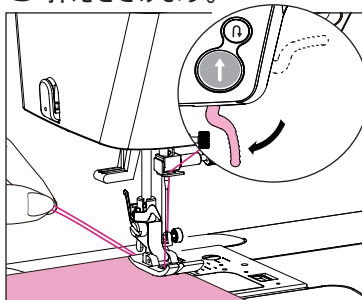
1 押えを確かめます。



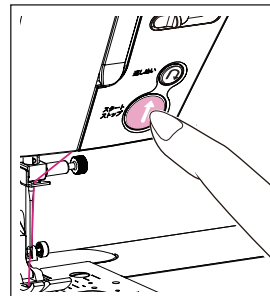
2 直線もようを選びます。



3 布地を入れ、押えをさげます。

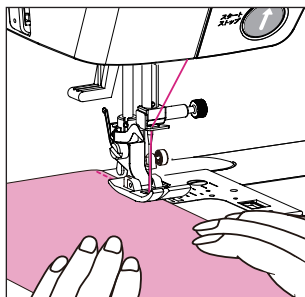


4 スタートさせます。

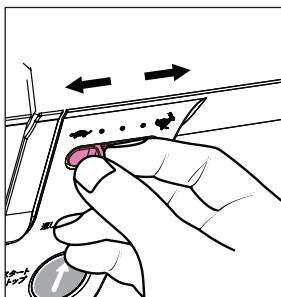


布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。上・下糸をそろえて押えをさげます。

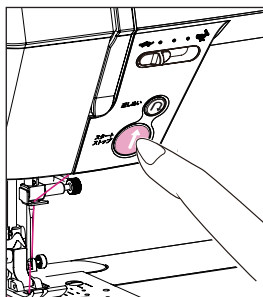
5 布地に軽く手をそえます。



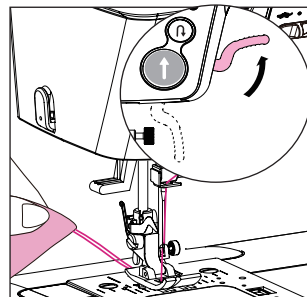
6 ぬい速度を調節します。



7 ストップさせます。



8 押えをあげて布地を取り出します。



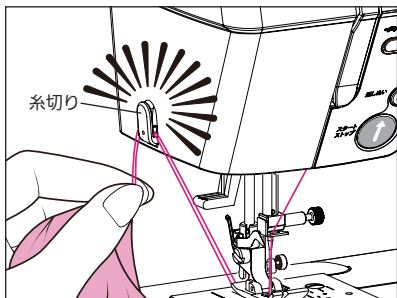
ぬっている間は布地をムリに引ばらないようにします。

右にするとはやくなります。左にするとおそくなります。

スタート・ストップボタンを押します。針は下で止まります。返しぬいボタンを押すと針が上がります。

針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。

9 糸を切ります。

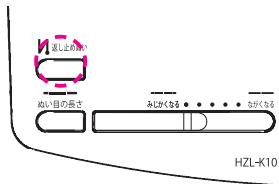


上・下糸をそろえて10センチほど引き出し、面部カバーについている「糸切り」で糸を切ります。

伸縮地の直線ぬいには！

ぬい目が伸縮しますのでニット、ジャージー地などの直線ぬいとして使用できます。

● 自動止めぬい

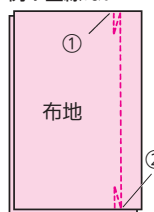


ぬい目が
ほつれないように...

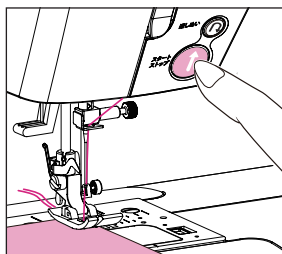
自動返し止めぬい

- ① 模様を選んだ後、返しぬい ボタン **N** を押します。
② 返しぬいボタンを押します。

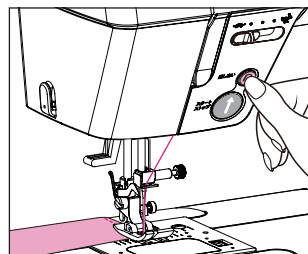
例：直線ぬい



N ボタンを押すとボタンが点灯して、模様のぬい始めとぬい終わりに返し止めぬいができるように設定されています。



返し止めぬいをしてスタート位置から自動的にぬい始めます。

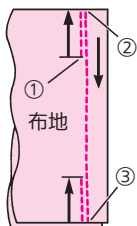


ぬい終わりの位置で返しぬいボタンを押すと返し止めぬいをして止まります。(針は上で止まります)
※ストップボタンを押してから返しぬいボタンを押しても返し止めぬいをします。

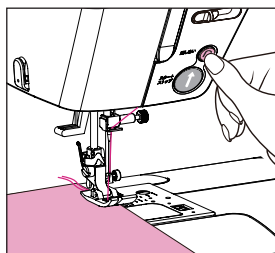
● 手動止めぬい (返しぬい)

多めの返しぬいをしたい場合お使いください。
(自動止めぬいは解除してください)

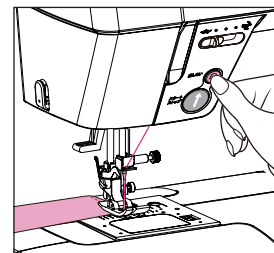
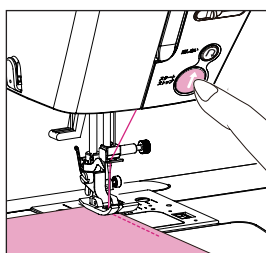
- ※ 返しぬいボタンは押している間だけ返しぬいができます
- ※ 返しぬいはゆっくりな速度になります。



- ① 返しぬいボタンを押します。
② スタート・ストップボタンを押します。
③ 返しぬいボタンを押します。

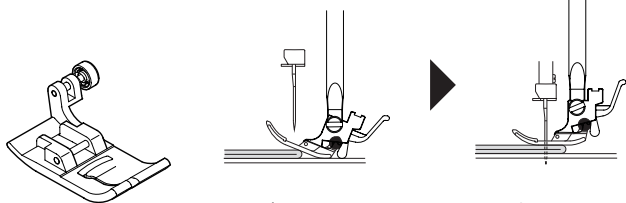


押している間だけ返しぬいをします。



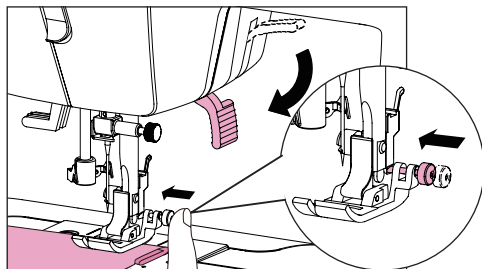
押している間だけ返しぬいをします。(針は上で止まります)

● 厚地のぬい始め



ぬいしろが重なった布端よりぬう場合は、押えについているボタンを使うと、押えが布地と平行になり、スムーズにぬうことができます。

押えについているボタン (パネ) を押えホルダーのミゾに押し込みながら押えをさげます。



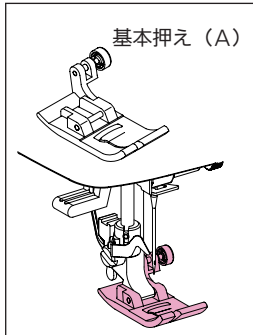
■ ジグザグぬい



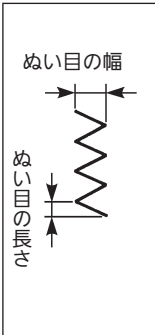
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えを確かめます。



2 ジグザグ模様を選びます。

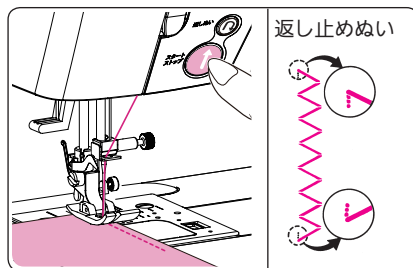


自動設定	
幅	1.5
	長さ 1.0
長さ	3.5
	幅 1.4
幅	7
	長さ 2.0

(単位：ミリ)

■ 自動止めぬい

ぬう模様を選んでから **N** ボタンを押します。
布地をぬい始める位置に入れ、スタートさせます。



止めぬいをしてからぬい進みます。
ぬい終わりには返しぬいボタンを押します。
止めぬいをして、途中で止めたいときは、スタート・ストップボタンを押すと（返しぬいをせずに）止まります。

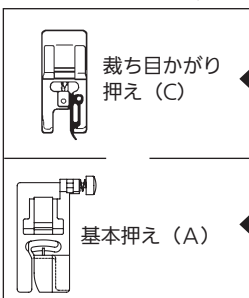
■ 裁ち目かがり

布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

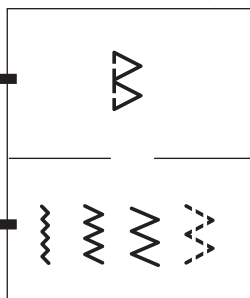


注意
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

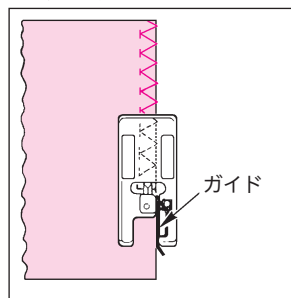
1 模様にあった押えに変えます。



2 模様を選びます。



3 裁ち目かがり押えを使う場合



4 種類のうちお好みの模様を選びます。
裁ち目かがり押え (C) を使うときは、必ず **▽** を選択してください。

▽ の模様は必ず基本押え (A) をお使いください。

※ 押えを誤って使用すると針が折れ、けがをする恐れがあるので、正しくご使用ください。

布端をガイドにあててぬいます。

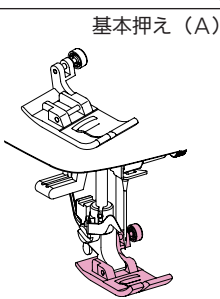
■ 直線強化ぬい

伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

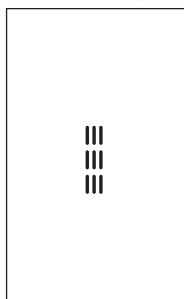


注意
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

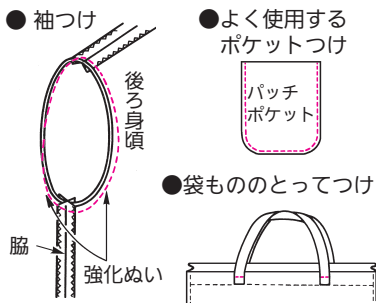
1 押えを確かめます。



2 模様を選びます。



■ 使用例



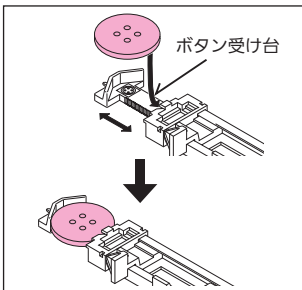
■ 自動ボタン穴かがり



押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

ぬう布地やボタンの大きさに合わせて模様を選びます。

1 押え (E) にボタンをセットします。

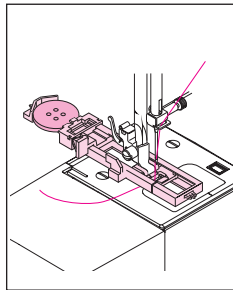


ボタン受け台にボタンを置いてはさみます。ボタンの大きさに応じたボタン穴かがりが出来ます。

2 目的に合ったボタン穴かがりを選びます。

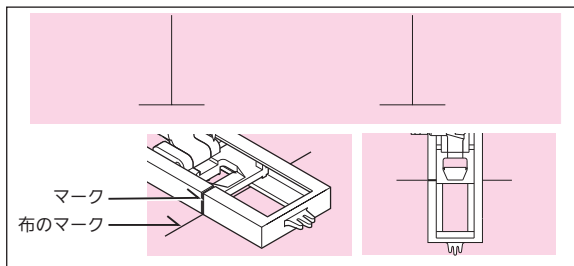
模様	主な用途
	一般的なボタン穴かがりあらゆる用途に使用
薄地用	
中・厚地用	

3 押え (E) をミシンにとりつけます。



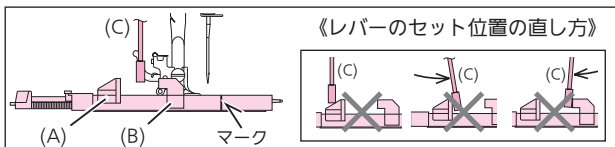
上糸を押えの下へくぐらせ横へ出します。

4 印に合わせて押えをさげます。



布地の穴かがりをする位置にマークをつけます。布地を押えの下に入れます。布の下側にある下糸は、後ろへ1.0cm程引き出しておいてください。布地のマークとボタン穴かがり押えのマークを合わせて、ボタン穴かがり押えを下ろします。

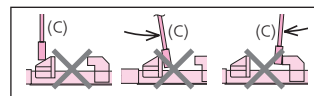
5 ボタン穴かがりレバーをセットします。



ストッパー (A)、(B) の間にボタン穴かがりレバー (C) が垂直に下りるようにしてください。

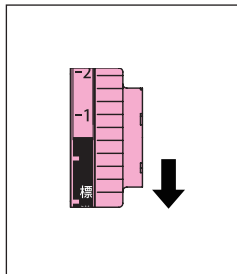
※ ボタン穴かがりレバー (C) が途中までしか下りていない場合や、垂直に下りていない場合は、ミシンは作動しません。スタートするとエラー音でお知らせしますのでセット直しして下さい。

《レバーのセット位置の直し方》



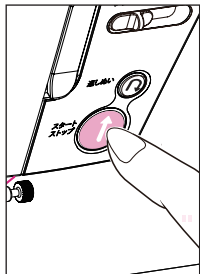
※ ボタン穴かがりレバー (C) が上の絵の状態の時は、押えを上げて、ボタン穴かがりレバー (C) をストッパー (A) (B) の間に下りるようにセット直し、布の位置をずらして、マークを合わせ直してください。

6 糸調子を調整します。



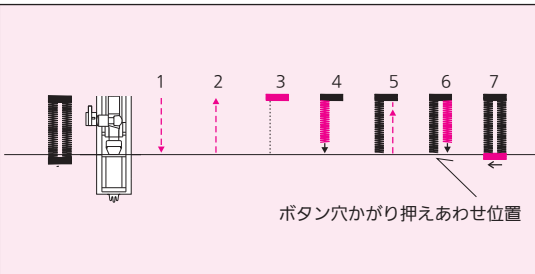
※ 布や糸にもよりますがボタン穴かがりは多少上糸が強めになりますので、上糸の調子を弱くすると、よりきれいなぬい目になります。

7 スタートさせます。



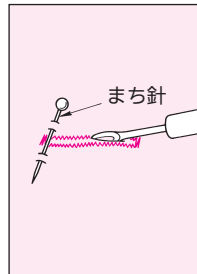
スタート・ストップ ボタンを押します。

ぬわれる順序



ぬい終わったら糸を切ります。

8 リッパーで穴をあけます。



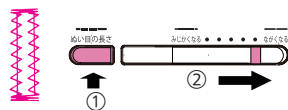
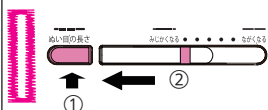
切りすぎないようにまち針を使うと失敗しません。

●ぬい目の長さの調整方法

※ デニムなどの厚地や太糸を使用してボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さを自動位置より粗めにします。

ぬい目の長さを細かくするには！

ぬい目の長さを粗くするには！

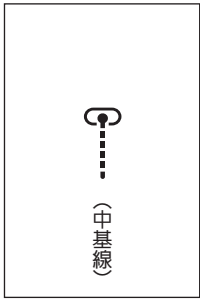


■ ファスナーつけ

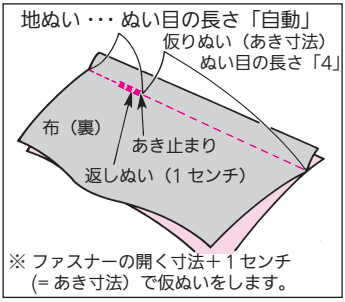
ファスナーつけは一般的に脇あきファスナーつけと、つき合わせファスナーつけがあります。

注意
 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 模様を選びます。

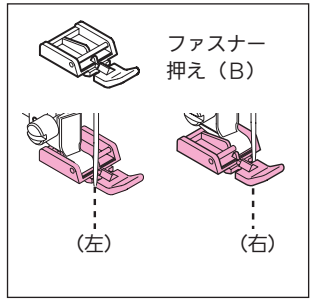


2 基本押え (A) を使ってぬいます。



※ ファスナーの開く寸法+1センチ (=あき寸法) で仮ぬいをします。

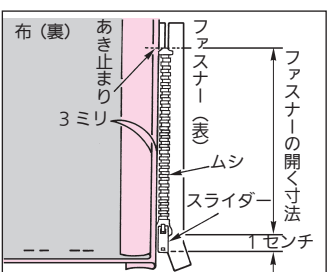
3 ファスナー押え (B) をセットします。



布地を中表に合わせて、地ぬいと取り付けるファスナーの寸法を確かめて返しぬいをします。
 ファスナーの左側をぬうときは、押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

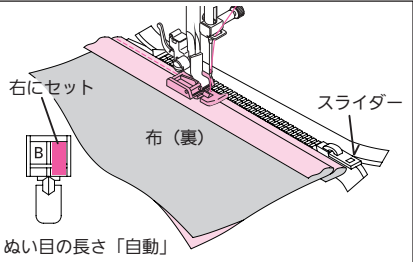
脇あきファスナーつけ

① ぬいしろをわります。



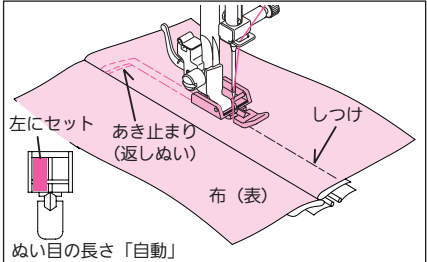
後ろ布のぬいしろを3ミリ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

② ファスナーの下方から上方にぬいつけます。



押えの端をムシのきわに当ててぬいます。ファスナーのスライダーのところは手前5センチくらいでミシンを止め、スライダーを押えの向こう側へさげて、端までぬいつけます。

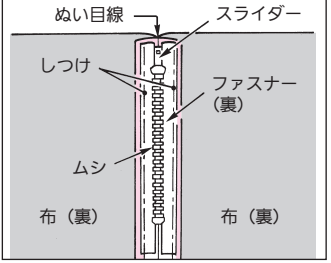
③ 上布をファスナーの上にかぶせしつけをしてからぬいつけます。



スライダーを引上げて、上布をファスナーの上にかぶせてしつけをします。あき止りに返しぬいをして図のようにぬいます。スライダーのところは仮のぬい目をほどこしてスライダーを下げ、残りをぬいます。

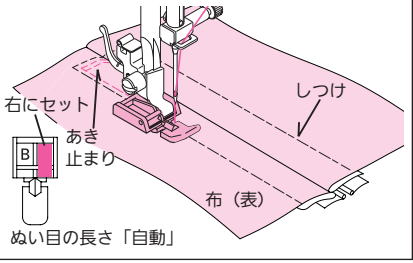
つき合わせファスナーつけ

① ファスナーをしつけます。

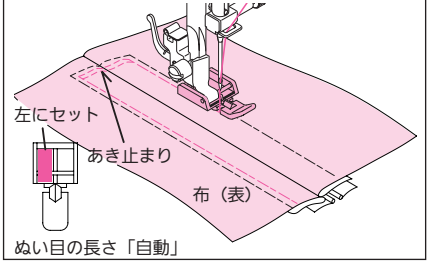


ぬいしろをわり、ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

② 左側をあき止まりからぬいます。



③ 右側をぬいます。

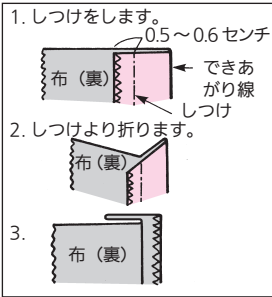


ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどこします。

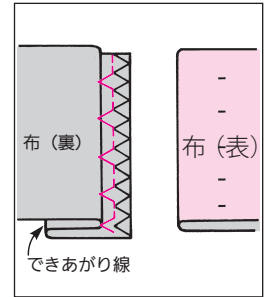
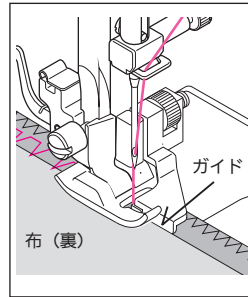
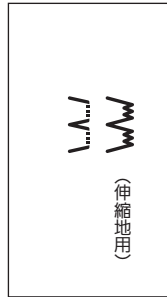
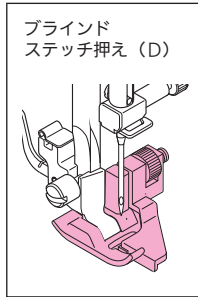
■ まつりぬい (ブラインドステッチ)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

- 1 裁ち目かがりをして布地を折ります。
- 2 押えをとりつけます。
- 3 模様を選びます。
- 4 押えのガイドに折り山を当ててぬいます。
- 5 布地をかえします。



裁ち目かがりとは 14 ページ参照



ぬい終わりましたら布地を折り返します。

● ブラインドステッチ押えのガイド調節方法

折り山にぬい目がかからない場合

ガイド
ネジを手前に回すとガイドが右へずれます。

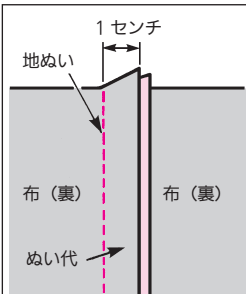
折り山にぬい目がかかりすぎた場合

ガイド
ネジをむこう側に回すとガイドは左へずれます。

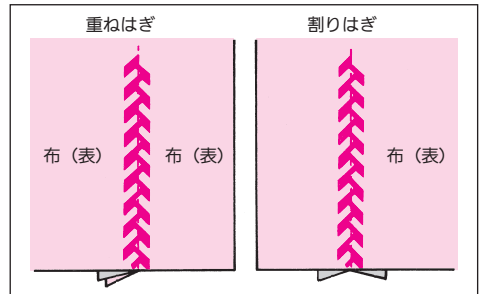
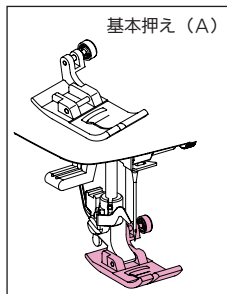
■ パッチワーク

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

- 1 地ぬいをします。
- 2 押えを確かめます。
- 3 模様を選びます。



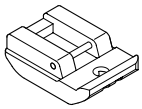
2 枚の布地に地ぬいをします。



両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

■ 別売品のご紹介

コンシール押え



使う模様

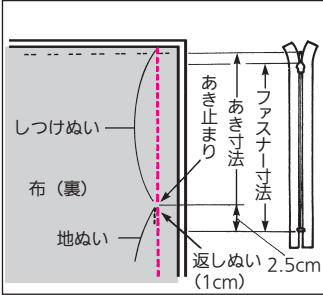


ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないので、つき合わせの状態、あきの始末ができます。

注意

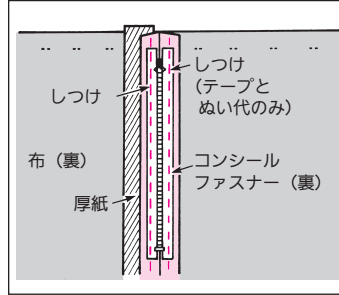
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 ファスナーあき寸法を確かめ基本押え (A) でぬいます。



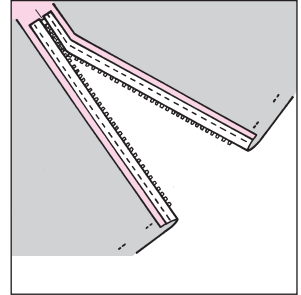
布地を中表に合わせ、布端よりあき止まりまでしつけぬいをします。あき止まりからぬい目を(自動)に変えて、1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬいしろをきちんとわります。

2



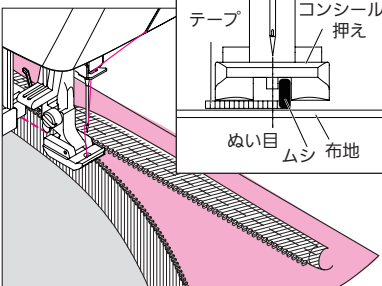
ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れ、ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めます。しつけが終わったら厚紙をとります。

3



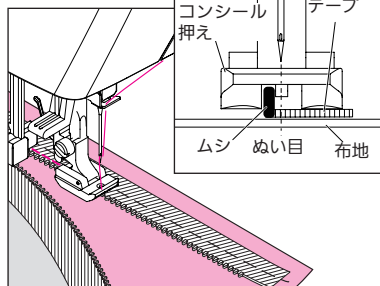
1 図のあき止まりまでぬったしつけぬいをほどこき、ファスナーを開きます。

4



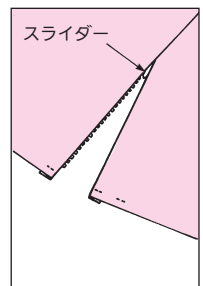
一方のファスナーのムシを、押えのみぞに合わせます。指でムシを立てるようにします。ムシのきわに、あき止まりからミシンをかけます。

5



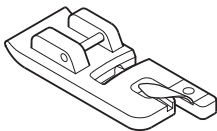
もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。(ファスナーテープのあき止まりから下の部分は、ぬいしろにぬいつけられずに残ります。)

6



スライダーを中より出し、上に引きあげます。

三つ巻き押え



使う模様

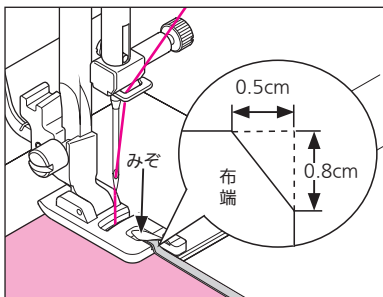


注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

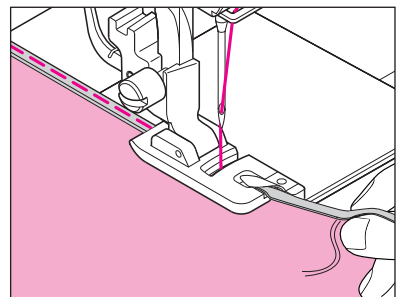
布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

1



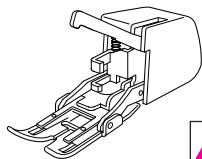
布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから、針をおろして押えをさげます。

2



上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわします。正しく巻き込まれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量が入り入れられるようにしてぬっていきます。

布ずれ防止に・・・
上送り押え

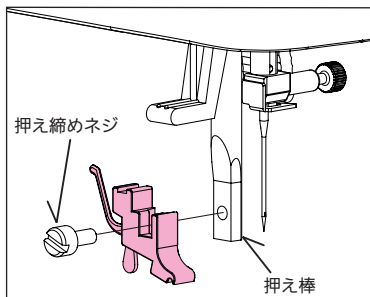


注意

押えホルダーや上送り押えの取り付け取り外しには、電源スイッチを切ってください。

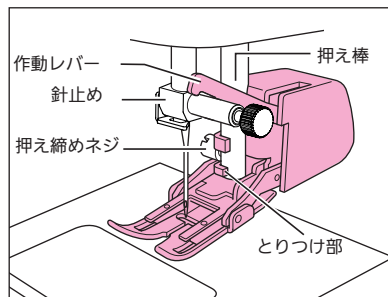
一般にミシンで送りにくい素材（ニット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など）に使います。滑らかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

1 押えホルダーをはずします。



押え棒をあげて、押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

2 上送り押えを取り付けます。

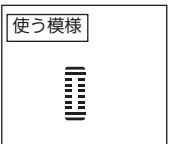
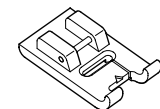


作動レバーを針止めの上にセットし、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりと締めます。

※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。

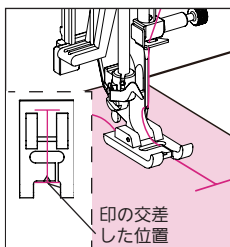
長いボタン穴かがりを作る場合

手動ボタン穴かがり押え (I)



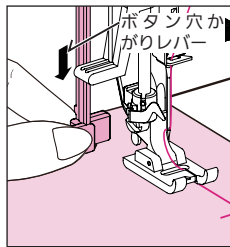
厚地の布を使った短冊あきや台衿の部分に穴かがりをする場合に用います。

1



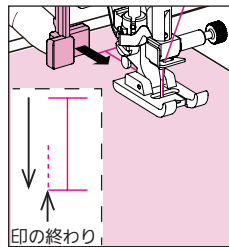
布地にボタン穴かがりの印をつけます。針をあげたまま、印の交差した位置を、押えの針穴の中心に合わせて、押えをさげます。

2



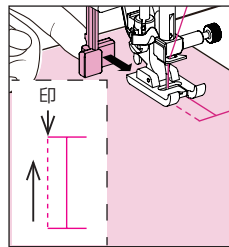
ボタン穴かがりレバーをさげスタートボタンを押して、ぬい始めます。
●左側の直線ぬいがはじまります。

3



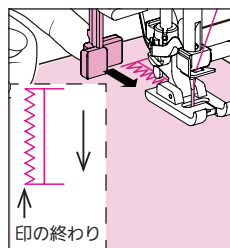
印の終わりに針がきた時、ボタン穴かがりレバーを手前に引きます。
●バックで左側のぬいがはじまります。

4



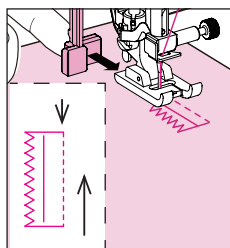
バックで左側のぬいがはじまります。最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引きます。

5



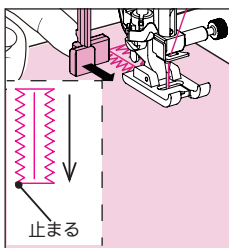
左側のジグザグぬいが始まります。印の終わりに針がきたとき、レバーを手前に引きます。

6



手前を移動し、バックで右側の直線ぬいが始まります。最初の印に針がきたときレバーを手前に引きます。

7



右側をジグザグぬいで進みます。レバーを引くとかん止め、止めぬいをして止まります。

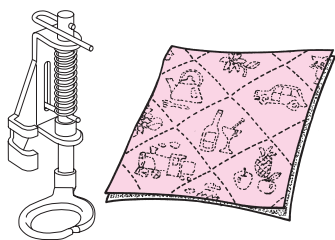
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

ご注意

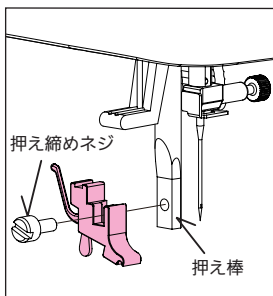
1. 布がレバーに触れないようにします。レバーが押されると次のステップに切り変わってしまいます。
2. 失敗したときはミシンをとめ、模様選択キーをもう一度押しと最初からぬうことができます。

キルトアタッチメント

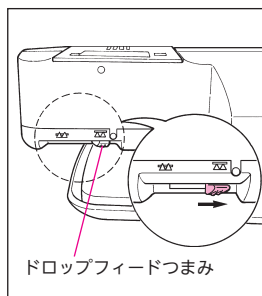


キルト芯を入れて
オリジナルキルトが作れます。
フリー刺しゅうにも最適です。

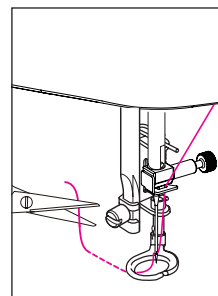
1 押えホルダーを
はずします。



2 ドロップフィードつ
まみを右にします。



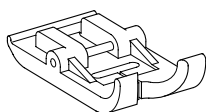
3 キルト押えを
取り付けます。



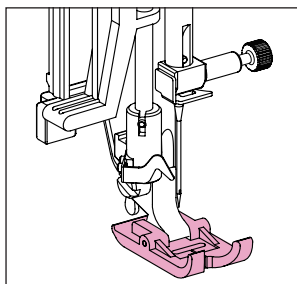
注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

スムーズ押え

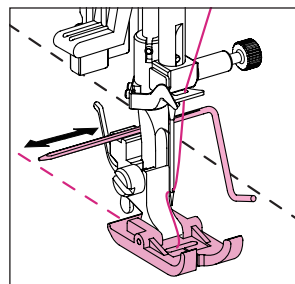
注意 押えの交換のときは電源
スイッチを切ってください。



スムーズ押えはすべりがよいた
め送りにくい素材（ジャージー、
ビニールクロス、皮など）に適
します。



棒定規（キルトガイド）

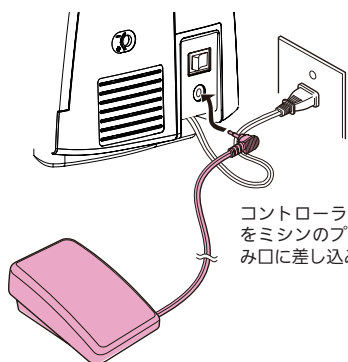


目安となる線に
沿って、まっす
ぐぬうことが
できます。

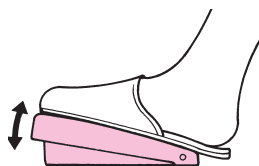
コントローラー

注意 ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。

コントローラーを使いますと、スタート、ストップ、スピードコントロールが足の操作で行えます。



コントローラーのプラグ
をミシンのプラグ差し込
み口に差し込みます。



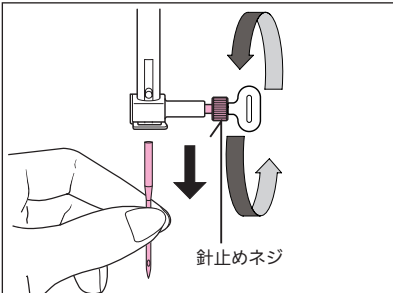
コントローラーを深く踏むと速くなり、浅く踏むと
遅くなります。足をはなしますと、ミシンは止まります。

- スタート・ストップボタンはストップのみ有効です。
- 返しぬいをするときは、返しぬいボタンを押します。

針の交換

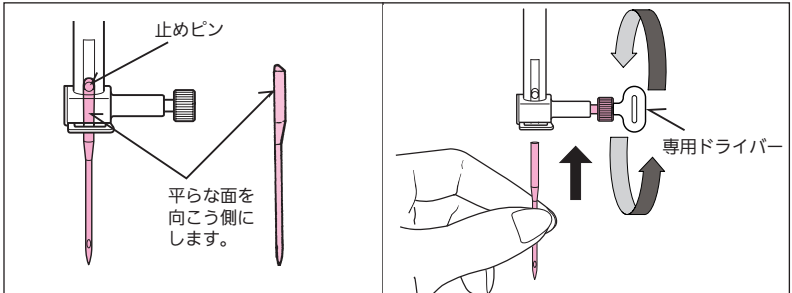
注意 針の交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

1 針のはずし方



- ① 針棒を最上部にあげます。
- ② 針止めネジをゆるめず。

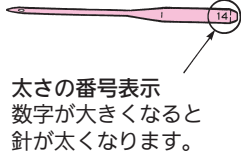
2 針の取り付け方 (針が正しい向きでないと、取り付けません)



- 針の平らな面を向こうにして止めピンまで差し込みます。
- 針止めのネジをかたくしめます。

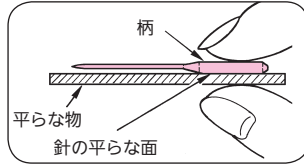
●針の選び方

針をお買い求めの際は、家庭用ミシン針のHA×1またはHA×1SP（ニット針）を指定します。



太さの番号表示
数字が大きくなると
針が太くなります。

●針の調べ方

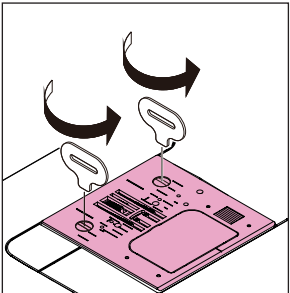


すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにします。

お手入れ (掃除)

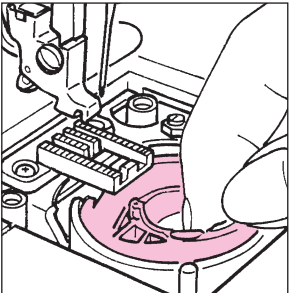
注意 ミシンのお手入れをするときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

1 針板をはずします。

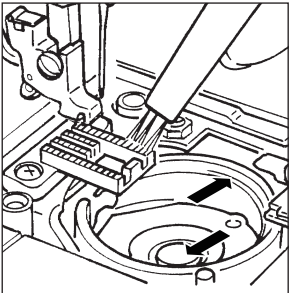


針や押えをはずしてから針板をはずします。

2 内がまをはずします。

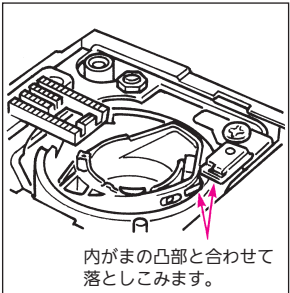


3 ブラシなどを使います。



送り歯とかまの中や周辺をきれいにします。たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれいになります。矢印の部分にミシン油を一滴差します。

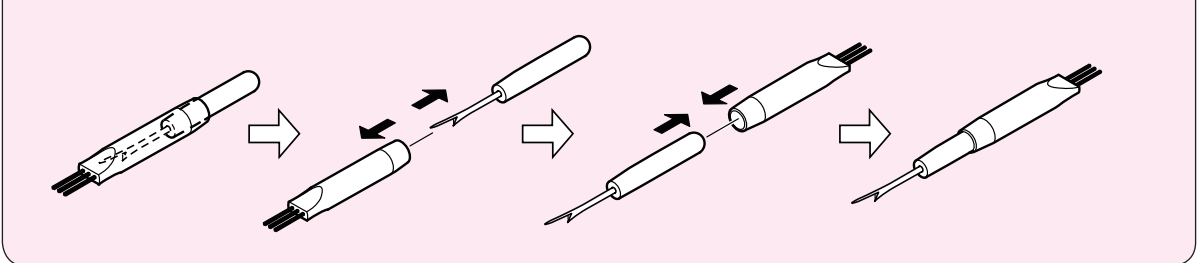
4 内がまをセットします。



内がまの凸部と合わせて落とさこみます。

注意 差しすぎた場合には、きれいにふき取ってから、ポビンケースをかまに入れてください。

リッパー (糸ほどこ) の使い方



■ 故障かな………というときは

下記のことをお調べのうえ、それでも具合の悪い場合は、お買い求め販売店にご相談ください。

症 状	原因（理由）	処置方法	参 考 ページ
布を送らない	<ul style="list-style-type: none"> ● ミシンが空転している ● ぬい目の長さが「0」になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸巻き軸を左へ戻します ● 送り「1～4」に合わせます 	7 10
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> ● 針が曲っているか取り付け方を誤ったとき ● 押えと選んだ模様があわないとき ● 針、糸、布地の関係が悪いとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 針を交換し、正しく取り付けます ● 模様にあった押えを使います ● 布地に合った針と糸を使います 	21 9 11
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸のかけ方が間違っているとき ● 糸が必要以外の所へからんでいるとき ● 上糸の調子が強すぎる時 ● 針が曲っているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しくかけ直します ● 糸立棒・糸案内などからんでいるか調べます ● 糸調子を合わせます ● 新しい針にとりかえます 	8 — 11 21
下糸が切れる ぬい目とぶ	<ul style="list-style-type: none"> ● 針のつけ方が間違っているとき ● 針が曲っているとき ● 糸のかけ方が間違っているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しくとりつけます ● 新しい針にとりかえます ● 正しくかけ直します 	21 21 8
ぬいじわが出る	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸調子が強すぎる時 ● 布地と針と糸があってないとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸調子を合わせます ● 正しく合わせます 	11 11
布の裏側にタオル状に 糸がからんでいる	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸のかけ方が間違っているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しくかけ直します 	8
回転が重く、音が高い	<ul style="list-style-type: none"> ● かまに糸くずがたまっているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● かまを掃除します 	21
スタート・ストップボ タンを押してもミシン が回らない	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸巻軸が下糸巻き状態になっている ● コントローラー（別売）がセットされている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸巻軸を左側に戻します ● コントローラーでスタートさせるか、取り外します 	7 20
糸通しができない	<ul style="list-style-type: none"> ● 針が上にあがっていないとき ● 針をとりつけるとき上までつき当ててないとき ● 糸通しレバーをさげたまま（糸通し中）誤ってミシンを回してしまったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● はずみ車を回して、針を最上点にあげます ● 針を正しくとりつけます ● はずみ車を手でわずかに向こう側（ぬう時と反対）に回します 	8 21 —

■ アフターサービスと保証

- このマシンには保証書がついています。
- 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、お買い上げの日から1年間です。ただし、マイコン基板は2年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。（保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。）
- 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
当社は、このマシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

■ 仕様表

項目	仕様
本体寸法	幅 415 × 高さ 300 × 奥行 190 (mm)
ケースセット寸法	幅 440 × 高さ 305 × 奥行 215 (mm)
質量	マシン本体重量 7.2kg (ケースセット時 8.3kg)
定格電圧/消費電力	100V / 65W 50 / 60Hz

JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お買い上げのお店、または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日（月～金）9:00～12:00、13:00～17:45

Copyright © 2011 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

40116449

JUKI株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧 2-11-1